よしわら

第89号

昭和41年4月5日

発行 吉原市役所
吉原市今泉43の1
電話(代表)②3111番
編集 市長公室

41年度予算

22億4千5百万円(一般 特別)

一般会計16億5千万円

吉原市議会三月定例会は、三月十日から二十二日まで十日間の会期で開かれました。この定例会には、昭和四十一年度予算、吉原市国民健康保険条例の一部改正、市立幼稚園保育料徴収条例の一部改正など重要議案六二件が上程され、いずれも原案どうり可決されました。その結果昭和四十一年度当初予算は一般会計十六億五千六百万円、特別会計五億八千九百六十一万七千円で、総額二二億四千五百六十一万七千円の大型予算となりました。昭和四十一年度予算の編成や改正された主な条例は次のとうりです。

あたたかい政治と明るい都市づくり

斉藤市長 41年の施政方針

昭和四十一年度は、国の財政動向によれば、昨年来の沈滞した景気回復の主役を財政が演ずることとなり、そのため国庫財政においては、平年度三〇〇〇億円を上回る大幅減税と、七三〇〇億円の国債発行という、かつてない大胆な措置により財政支出をはかり、両施策を通じて景気の回復をはかろうとしています。

これは、当然地方財政に対しても大きな影響を伴なってまいります。

このようにして迎える昭和四十一年度の冒頭にあたり、特に申上げたいことはみなさんとともに〝シツカリ〟と市政の方途を見極め、諸懸案に対し、勇気をもつて対決すべき義務と責任に満ちた年であるということです。

そのために私は予算編成の重点目標を、特に次の二つをあげました。すなわち、あたたかい政治の実現と明るい都市づくりです。次代の担い手である学童、生徒を豊かなうるおいのある環境で成長させることは〝人づくり〟のうえでもつとも重要なことです。そのため教育施設の整備事業をはじめ、不しあわせな児童を収容する施設に大きく予算を投入しました。その反面、明るい環境衛生都市づくりのため都市計画街路事業道路整備事業、防災街区の造成、などの整備を重点的に行なつていきます。

市民の動き

(3月1日現在)

男 … 46,250
女 … 45,440
計 … 91,690
世帯数20,993

交通標識

交通きそく必ず守ろう

鈴木 康弘

ぼくはようち園に行つているときバイクにひつかけられて頭にけがをした。ぼくはびつくりするやら、いたいやらで大声で泣いてしまつた。バイクのおにいさんはすぐぼくをだいて病院へつれていつてくれた。おかあさんもびつくりしてとんできた。頭から血が流れているぼくをみて「いつたいどうしたの」と泣きそうだつた。たいしたことはなかつたからよかつたけど、もし頭の中でもけがをしたら、クルクルパーになつていたかも知れない。きめられた交通きそくを守つて、一人一人がきをつければ事故はおこらないと思う。

(原田小)

教育費

教育費には総額三億九千五百五十一万円が計上されています。

原田小を改築

校舎の新改築は、原田小伝法小の改築を三カ年計画で、須津小の改築を二カ年計画で行なうことになり本年度事業費として一億四千三百五十万円があてられています。

そのほか、教育施設の建設事業として、吉永第二小に工費六百六十一万円で室内運動場を、神戸小に工費六百五十万円でプールを、吉永第一小に工費八百万円で便所を建設。

社会教育費には総額五百六十九万円が計上されています。これは、成人学校、青年学級、婦人学級、婦人会、青年団などの活動を推進するための必要経費です。今年は新しく若妻学級を開設することになりました。

現在図書館には二六五〇〇冊の蔵書がありますが、さらにこれを充実させるため図書購入費三百万円がとられています。

土木費

明るい都市づくりの根幹である土木費には、昨年より九千万円多い二億九千四百五万円が計上されています。

ことしの防災街区造成事業は、一千六百万円で本町通り第三、五、七、十、十一街区を造成をします。

都市計画街路費八千九百三十九万円は、吉原沼津線、弥生線吉原大月線の改良費に四千三百五十万円、吉原浮島線ほか三路線の新設改良に四千五百八十九万円があてられています。

道路事業では、簡易舗装に一千五百万円、新設改良に二千万円が計上されています。橋梁費三百三十万円は花川戸橋(富士岡入町)のかけかえ工事を行なうものです。

市営住宅32戸

市営住宅の建設は、昨年に引き続き石坂町に中層耐火構造四階建一種一棟十六戸、二種一棟十六戸を工費四千百四十八万円でつくります。

河川費は四百二十万円です。

衛生費

市民が健康で明るい日常生活を営んでいくための各種予防接種、結核健康診断、成人病対策などの必要経費として九百十三万円がとられています。

清掃車を購入

清掃費は七百四十六万円で、ゴミ収集の能率をあげるため、ロードパッカー(二トン車)一台を百七十万円で購入します。清掃作業所費には四百六十四万円、防疫費には四百七十三万円がとられています

市立病院については整地事業費として二百万円が計上されました。また霊柩車が老朽化したため三百万円で購入します。

農林水産業費

大淵農業改善進める

農業関係では、昨年に引き続き大淵地区の農業構造改善事業を、工費二千四十万円で実施することになりました。耕地改良事業としては、元吉原地区のかんがい用排水事業に八百十五万円、団体営土地改良事業補助金に九百三十一万円がとられています。

林業関係では、山林振興のため林道境塚線二三八㍍の延長工事に百五十万円、七色石線五七〇㍍の開設工事に三百万円があてられています。造林は奥郷地、五ノ神の七・二ヘクタールに植林を行なうほか、穴小屋板小屋などにも改植を行ないます。

民生費

精薄児施設を

さいきん精薄児対策が社会問題化していますが、現在市内には約五〇〇人の精薄児がいると推定されています。こうした不幸な児童を、収容指導訓練できる施設を八王子本町に工費三千二百万円をかけてつくります。

青少年野外訓練所建設費二百五十万円は、昭和四十一年二月から行なわれている本施設の付帯工事費で、水道工事、電気施設工事費です。生活保護費には三千六百四十万円がとられています。青少年保護育成費に九十四万円、老人福祉費には七百七十一万円がとられています。

消防費

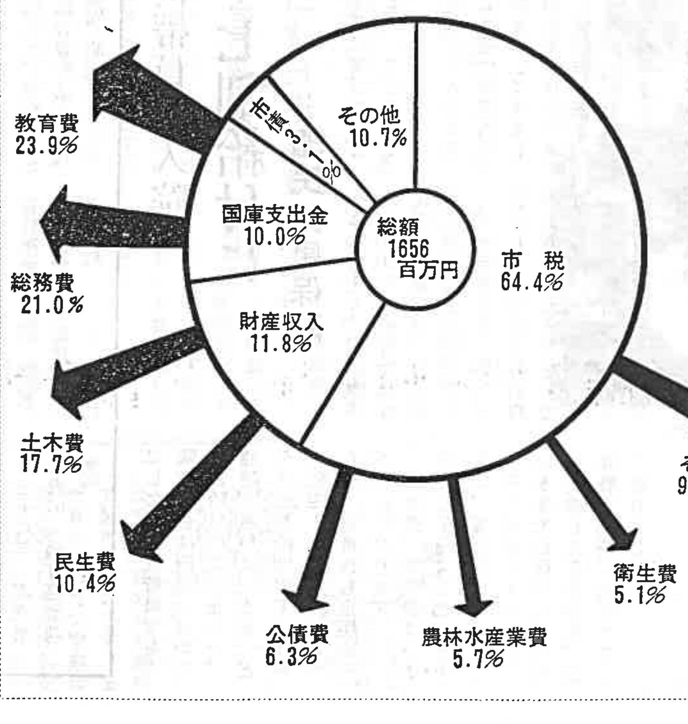
常設消防費では、最近の河川の水不足を考え、消防施設を整備強化するため、

防火水槽10基

ことしも防火水槽十基を工費五百八十万円で建設することになりました。また最近の火災は人身被害が多くなっています。そこで一酸化炭素や高濃度ガス、または酸素の不足しているところでの救助活動を強化するため、T・S式空気呼吸器三組を消防署に備えつけることになりました。

非常備消防費では、老朽化した消防車を一台更新するために百八十五万円、十二分団詰所の建て替えを工費百十万円で行ないます。

41年度予算



歳入

(単位千円)

目的別	本年度予算額
市税	1,066,681
地方譲与税	2,000
臨時地方特例交付金	1
娯楽施設利用税交付金	1
地方交付税	5,000
分担金及び負担金	1,096
使用料及び手数料	55,379
国庫支出金	164,974
県支出金	31,616
財産収入	195,181
寄付金	1,301
繰入金	9,890
繰越金	20,000
諸収入	51,880
市債	51,000
歳入合計	1,656,000

歳出

(単位千円)

目的別	本年度予算額
議会費	33,223
総務費	347,505
民生費	172,469
衛生費	84,924
労働費	4,577
農林水産業費	93,919
商工費	38,414
土木費	294,050
消防費	52,353
教育費	395,516
災害復旧費	25,073
公債費	104,425
諸支出金	22
予備費	9,530
歳出合計	1,656,000